

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



「財布でひも解く江戸あんない」
著 いずみ朔庵

江戸の貨幣事情の面白さを暮らしと共に紹介します。江戸に「行ったつもり」お金を「使ったつもり」になって楽しんで下さい。

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



「耳の聞こえないメジャーリーガー ウイリアム・ホイ」
ナンシー・チャーニン 文

「ストライク」「セーフ」。誰もが知っている審判のジェスチャーを考えた、あるメジャーリーガーの伝記絵本です。

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

長島文芸

Nagashima Bungai ながしまぶんげい

明神俳句会

薫風や体寄せ合ふ岬馬
初産に跡継ぎ得たり風薫る
薫風や久しく開くる納骨堂
日焼して漁師一筋親子船
武具飾る五体満足の祝膳
ゆるゆると下る一舟岸若葉
週末の押入れ全開風薫る
農婦かな指の先まで日焼して
夏めくや沖行く船の波の跡
誰が為に風に身委ね石鱈玉
水面に日焼け男の現るる
子供の日夢は宇宙を駆けめぐる
風薫るソーラーパネルが光る丘
犠打の子のロングヘアアア風薫る

淵脇 護
白男川孝仁
二階堂妙子
大堂 早苗
山喜加代子
迫口 君代
関 佳代美
二階堂恵子
坂口 静子
山田 哲夫
大堂 光幸
筑前 初市
大堂 正弘
脇田 武志

創世短歌会

草焼きの煙が畦の人おおい影絵の如く人が働く
納戸より出ししばかりの扇風機今年はじめの風を起せり
部屋内に吊して干せる洗濯物の下に座りぬすることもなく
街中のガソリンスタンド閉鎖して日の暮れ際の早くなりたり
片耳を枕につけて寝たれば命の音すかすかなれども
八十年使いて古りし手と足がまだまだ動く機械の如く
山影の伸びて陰なす頃合いを計りて芋の草取りにゆく

竹之内重信
宮元 司
石原百合子
村上 義彦
大塚 洋子
野村 益信
山下 学

長島短歌会

唐突に逝きたる友の通夜に来てわれの残りの生を計りぬ
川面から太木の上まで乱舞せし螢火ゆらゆら小浜川の宵
ダイケアの友に貰ひし海老根咲きわが見る時に朝露の落つ
赤土をまとひて出づるじゃが芋に蟻の如しよ人等は群れて
わが畑に春の蓬の香の立ちぬ摘み来て手早く餡餅つくる
わが島に空梅雨続くを思ふ夜ニユースに明日の降雨告げども
花園の手入れに里の女性らがいそしむ姿華やぎて見ゆ
三里余の山野の道をいかに越へ二ヶ月経し今日飼ひ猫帰る
夏風邪にわが臥せをれば昼ながら地虫の鳴けるごとき静寂

坂之下典子
中山タマエ
濱田美代子
濱畑 松枝
松元 睦子
岩下 ち江
岩下 房代
榎平 頼子
米尾 和子

一般作品

「短歌」
晴れ続き百姓に嘆きの空梅雨となり哀れなり
夜通しの雨はあがりて庭あらた螢袋はひとつ咲きいづ
赤土のばれいしよ掘り島総出どっさり乗せて軽トラきしむ
定番の雨に紫陽花蝸牛推敲すれど駄作がずらり
平日のシニアだらけのマックにてコーヒを飲む午後のひととき
人生は若き時代は帰らずと年取る事に先き無き事よ

宗方 清明
中仮屋辰子
小林 貢
小林 如月
母木 良平
町田 末則